（小10）鹿児島市立吉野小学校

令和6年3月5日

令和5年度　学校関係者評価書

課題	対応策		学校運営協議会委員の評価	取組の状況
●あいさつに個人差があり、全体的に声が小さい。	共通実践事項	＜心をこめた明るいあいさつをする＞ あいさつをすることの意義を児童に意識させる指導を行う。 ○　ふれあい委員会を中心とした児童主体のあいさつ推進運動	○　校外でのあいさつがよくなってきているが、冬場は子供たちに元気がない。 ○　校区コミュニティでも、地域の一員として、まずは「あいさつ」が大切であると考えており、より活性化させるために検討をしているところである。 ●　家庭内でのあいさつはどうか、朝起きたら「おはよう」を家族内で言っているのか。 ●　保護者のあいさつができていない時がある。PTAでも周知していく。	・　児童からのあいさつが増えてきた。声の大きさも改善されてきた。 ・　全校児童がに浸透するよう、個に応じた指導を継続する。
●　児童数が多いため、十分な歩行スペースがなく、廊下を走る児童が多い。 ●　安全な登下校ができていない（地域からの苦情が多い）。		＜正しい廊下歩行＞ 全職員が共通した指導「廊下は歩きます。」を掛けて、意識付けを行っていく。 ○　安全委員会児童による校内点検とパトロールを定期的に行う。	●　特定の同じ児童が廊下を走っていると思われる。なぜ走ってはいけないのかということも含めて、個に応じた対応が必要である。 ○　1学期当初と比べると、概ねよくなってきている。地域と協働した交通安全教室も実践できたらと思う。	・　児童同士で互いに注意をする場面もあり、意識化が進んでいる。 ・校区コミュニティとも連携しながら安全な登下校を指導していく。
●　「そろえる」・「片付ける」が十分とはいえない。 ●　校内の落とし物がとても多い。		＜くつ・トイレのスリッパを揃える＞ 繰り返しの指導（特にきちんとできている児童への称賛）により、児童の意識化を図る。 ○「まわれ右」をして揃える スリッパ並べのポスターや置く位置を示すテープを貼るなど、各学年の実態に応じて視覚的に意識化を図る。	○　靴箱のくつがそろうようになってきたが、トイレのスリッパがもう少しである。 ●　家庭でのしつけ（家での靴ならべ）とも関連することであるため、保護者への啓発も必要である。	・　以前より並べられていることが多いが、トイレのスリッパについては、複数学年が使用するため、差が見られる。 ・　引き続き、効果のあった取組を継続する。